

モロッコ政治月報(10月)

2015年11月30日

在モロッコ大使館

10月のモロッコの政治情勢等を、当地報道を中心に以下のとおりまとめました。要人往来については末尾の一覧表をご覧ください。

なお、当政治月報は当月中にメディアで多く取り上げられた話題をその都度記録したもので、これらニュースについての当館及び日本政府の立場を何ら反映するものではありません。

【主な出来事】

- ◎ 参議院選挙実施（2日）
- ◎ 国会の開会（9日）
- ◎ 参議院議長選挙実施（13日）
- ◎ モハメッド6世国王の印・アフリカ・フォーラム・サミット出席（29日）

<内政・政局>

1 モロッコ参議院選挙及び参議院議長選挙結果

(1) 2日、モロッコで参議院選挙（間接選挙）が実施された結果、イスティクル党（P I, 野党）が24議席を獲得し、参議院第1党の地位を得た。真正と現代党（P A M, 野党）がこれに続く23議席を獲得、公正と発展党（P J D, 与党）は12議席を獲得した。

(2) 与野党別では、政党色の比較的薄い給与所得者組合による選出（20議席）を除く100議席（参院総数は120）について、与党連合が32議席、野党が55議席、その他が13議席を獲得する結果となった。選挙前、参院筆頭党であったP A Mが僅差であるがP Iに同院第1党の地位を譲ったほか、独立国民連合（R N I, 与党）、進歩社会主義党（P P S, 与党）及び人民勢力社会主義同盟（U S F P, 野党）が参院におけるシェアを後退。

(3) なお、給与所得者組合分20議席については、モロッコ労働連合（U M T。独立派）6議席、民主労働連合（C D T）4議席、モロッコ国民労働連合（U N T M。与党P J D寄り）4議席、モロッコ労働者総連（U G T M。野党P I寄り）4議席、民主労働連盟（F D T。野党U S F P寄り）、民主労働機関（O D T。野党P A M寄り）、民主国民労働組合（S N D）が各1議席を獲得した。

(4) 13日、参議院議長選挙が参院議員による秘密投票により実施された結果、僅差でベンシャマシュ候補（P A M国民評議会議長）がカユー候補（P I。元手工芸大臣）を破り、当選した。

2 モハメッド6世国王による議会開会及び開会時の演説

(1) 9日、モハメッド6世国王は衆参両議院の秋期会期を開会した。同国王は開会時の演説で、今期会期では2011年に制定された新憲法が定める各種機関を実際に設置する必要があり、重要な会期となる旨述べるとともに、2日の参議院選挙に触れ、選挙は終わりではなく物事の始まりであり、選挙で当選した議員は市民の代表として極めて重要な責任を負っている旨述べた。

(2) 同国王は、今期会期で議論される重要法案として、アマジグ語の公式文字の制定にかかる組織法案、モロッコの言語・文化に関する国家評議会の開設にかかる組織法案、ストライキ権の実施にかかる組織法案、摂政評議会の開設にかかる組織法案を例示した。

3 テロ組織網の解体と6名のテロリスト逮捕

4日付報道によると、中央司法捜査局（BCIJ）はスペイン治安当局との連携によりカサブランカにおいて、ISIL戦闘員の募集に関わったとして6名を逮捕した。今般逮捕された6名のうち1名は、イタリアにおいてテロ行為との関わりがあったとして拘留されていた経歴を持っていた。今回モロッコ国内で逮捕された6名と併せて、スペイン内務省は、同日、スペイン国内（トレド、バレンシア、及びバルセロナ郊外）においてイスラム教に改宗したポルトガル人と2名の女性を含む、4名の共犯者を逮捕した。

4 カスバ・タドゥラにおけるISIL信奉者の逮捕

14日及び15日付報道によると、BCIJはカスバ・タドゥラ（モロッコ中部）において1名のISIL信奉者を逮捕した。家宅捜索の結果、逮捕者が爆発物製造に十分な原料などを所持していた。押収された原材料については専門家の鑑定により爆発物の製造に使われるものであることが判明している。なお、同捜索により、ISILの旗、携帯電話、モロッコ国内でテロを実行する旨録画したビデオが発見されている。

<外交・国際関係>

5 スウェーデン企業のボイコットの可能性

2日付報道によれば、1日、閣議後の記者会見においてハルフィ・コミュニケーション大臣兼政府報道官は、スウェーデンが数年にわたりモロッコ企業の製品（とりわけ西サハラ地域で活動している企業の製品）及びモロッコと関係のある海外企業の製品のボイコットを呼びかけている旨説明した上で、モロッコは相互主義を適用し、スウェーデン企業の製品をボイコットすることを決定した旨述べた。

6 ラバトのスウェーデン大使館の前におけるデモ

5日付報道によれば、4日、スウェーデンによる「サハラ・アラブ民主共和国（RA

SD)」承認の可能性に反発して、当地スウェーデン大使館前で、モロッコの全域から集まった数万人のモロッコ人がデモを行った。デモにおいて、非営利団体、人権団体及び政党からなる参加者は、「モロッコ・スウェーデン関係にイエス、我々の領土の侵害にノー」、「外交介入にノー」、「私の国に触れるな」、「西サハラはモロッコであり、モロッコのままである」などのスローガンを掲げスウェーデンに抗議した。

7 約束草案（INDC）フォーラム

12日及び13日、当地にて、COP22議長候補国であるモロッコ政府と、国連（UNDP及びUNEP）及び欧州委員会が主催する約束草案（INDC）フォーラムが開催され、学界、シンクタンク、国際機関専門家、各国政策担当者など300名弱が参加した。

8 モハメッド6世国王のインド・アフリカ・フォーラム・サミット出席

（1）29日、モハメッド6世国王が、ニューデリーで開催中のインド・アフリカ・フォーラム・サミットに出席し、演説を行った。同国王は演説で、祖父であるモハメッド5世国王及びネルー印首相の時代から続く、印との特別な2国間関係を引き続き維持する旨述べたほか、先駆的な開発モデルを作り上げた印の経験を称賛した。

（2）また、同国王は南南協力の重要性について触れた上、モロッコがアフリカの国家として、西アフリカにおいて最大の投資国であり、アフリカ大陸全体で第2位の投資国である旨紹介した。更に、同国王は、治安及び安定は開発の重要な柱であり、治安が安定しなければ、我々は社会状態を改善することはできず、開発のイニシアティブを成功裏に終了することはできない旨述べた。

<モロッコ要人の外国訪問>

日付	国	氏名・肩書き	目的
-10月2日	米国	ムーレイ・ラシッド王子	国連総会出席
-10月4日	フランス	モハメッド6世国王	私的滞在
10月6日	ア首連	アマラ・エネルギー大臣	MENA 鉱物関連会合 (マイニング・ショー) 出席
10月21日	チュニジア	セッディキ雇用・社会問題大臣	モロッコ・チュニジア社会 保障新協定署名
10月22日	フランス	ブーアイダ外務・協力大臣 付特命大臣	OECD マリ支援会合 出席
10月22日	カタール	セッディキ雇用・社会問題大臣	駐ドーハ・モロッコ雇用 事務所開所式出席
10月26日-29日	インド	モハメド6世国王, メズ アール外務・協力大臣, アブー対外貿易担当特 命大臣	インド・アフリカ・フォー ラム・サミット出席
10月30日	メキシコ	ブーアイダ外務・協力大臣 付特命大臣	第60回自由主義インター ナショナル会合, デ・ イカザ外務副大臣との 会談出席

<外国要人のモロッコ訪問>

日付	国	名・肩書き等	目的
10月1日	ベルギー	ジャンボン副首相兼内務大臣	対過激思想フォーラム出席，ハッサド内務大臣との会談
10月1日	ベルギー	ヴァンデプート国防大臣	ブシャイブ・アルーブ王国軍総監兼南部方面司令官，ルディ国防担当大臣と会談
10月6日	中央アフリカ	コヤラ国防担当大臣	ブシャイブ・アルーブ王国軍総監兼南部方面司令官，ルディ国防担当大臣と会談
10月6-7日	仏，西，伊，マルタ，ポルトガル，アルジェリア，チュニジア，リビア，モーリタニア	ファビウス外相（仏），マシェッテ外相（ポルトガル）ほか	地中海沿岸国5+5外相對話出席
10月6日	アルバニア	ブシャティ外務大臣	メズアール外相，ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣と会談
10月14日	コロンビア	ロンドノ外務副大臣	ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣と会談
10月17-20日	ア首連	アール・ナヒヤーン外務大臣	メズアール外相との会談
10月19日	チェコ	トラパ外務副大臣	ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣と会談
10月18-21日	オランダ	オランダ議会安全保障・司法委員会代表団	ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣との会談
10月19日	マレーシア	スルタン・ナズリン・シャー・ペラク	ベンキラン首相と会談
10月19日	ガボン	ディクンバ社会問題担当大臣	医療補助者トレーニング会合出席
10月19日	国連	ロス・サハラ問題担当特使	メズアール外相，ブーアイダ外務・協力大臣付特

			命大臣, ヒレイ国連常駐代表と会談
10月19-21日	国連	ルッカー国連人権理事会議長	ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣との会談
10月21-22日	フランス	フェクル貿易・観光振興・在外仏人担当大臣	観光に関する二国間協力協定署名
10月21日	ア首連	アブダッラー外務大臣	メズアール外務・協力大臣との会談
10月29日	NZ	ジョン・キー首相	ベンキラン首相との会談

(了)